

寺報 佛心

第62号

【発行所】

日輪山 長久寺

岩園市美和町生見八一七

電話 〇八二七（九六）〇九八二

FAX 〇八二七（九六）〇九八二

発行人 三上 宗順

秋季大法要並説教

十一月二十四日（月・振休）

午後二時から

大般若祈禱会

説教

説教師 村上邦明師

和木町 安禪寺（曹洞宗）

大般若会は、ご先祖のご
供養と秋の寒りに感謝し、
病氣平癒・家内安全・健康
長寿等諸願成就の大般若祈
禱を6人の僧侶で行います。



ご近所お誘い合せの上お参
りください。ご祈禱した般若
札を差し上げます。



尚、古い般若札はお参りの
時に持参されれば、年末に
お焚き上げ供養を致します。

幸せになる方法⑩

「はだかにて生まれて来たに
何不足」、これはご承知のよ
うに小林一茶の句です。

清貧に生き俳句に心の豊か
さを見出した一茶でも、ふと
湧く欲望に己を叱咤したこと

もあつたようです。

人の苦はどうも人間関係か
ら生じるコトが多いようです。
その一つが「他の人とくらべ
る」こと。「くらべる」は、
モチベーションを上げる感情
といえますが、不幸の要因の
方が強いように思います。

「くらべる」という感情は、
健康・容姿・知能や財産など、
他の人より劣っていれば嫉妬
し不幸に思い、優れていると
思えば優越感に浸り安心する。

また自分の能力や意見など
が正しいか知るために、他者
と比較することが有りますが、
正しいと分かれば自信にもつ
ながり、自分を知るための大

切な感情でもあるようです。
しかし「くらべない」こと
で、心がとても軽くなること
が有ります。

例えば病氣や老後の生活な
ど将来を思えば心がふさがり
ます。そんな時、なぜ自分だ
けこうなのかと悔しがったり、
他者を恨めしく思ったりする
ものです。他者の健康や生活
のレベルを自分と比較しても、
余り役に立ちません。それよ
りすこし勇気を出して、今の
自分の全てをありのままに認
め、受け入れる。今の自分
心身や生活状況をよく観察し、
丸裸の自分と向き合ってみる。
一茶の句に通じる禅の言葉
に「本来無一物」があります。
何も無いから捨てるモノもく
らべるモノもない。今あるモ
ノとコトですべてが足りてい
る。そう気付いたら、幸せな
のでしょう。

見えないものを観る

9月の終わり、ある主催者による人形供養の法要が行われました。

会場の仏壇には、和服姿の美しいお雛様、鎧兜の五月人形、市松人形・博多人形・木肌のこけしがずらり。フランスマ人形などアンティークな西洋人形もドン。可愛いキュウピーも。そしてモコモコの動物や魚などのぬいぐるみが居並び、所狭しとアニメやキャラクターターグズも勢ぞろい。表情も豊かに大小色取り取り、その数300個いや500個はあったかもしれない。

たぶん人形と遊べるのは無邪気で純粋な心が有る人なのでしょう。大人が忘れた子供の心ですね。

子供にとってもただ可愛いだけじゃない、ママの温もりを探している。頬ずりするの

もいとおしいだけじゃない、悲しくてこぼした涙をぬぐっている。人形が子供の心を育てているのですね。

どの人形も一つ表情なのに華やかさと寂しさを感じさせ、息を吹き返したように整然と並んでいました。

人形供養は、日本人の宗教観から来るもので世界的にも珍しいらしい。愛情を注ぎ癒され慰められた人形に、霊魂が宿ると思っても不思議ではありません。だから感謝を込めて供養をする宗教行事に発展したのでしょう。

ところで世界中に「霊」の考え方はあるようですが、日本でも「幽霊」のような悪霊と、子孫を守る「守護霊」のような善霊がありますね。

太陽や月、雨風や雷、大きな岩や木、そして病氣や死といった人間の力の及ばない自

然の事象や命の神秘に、神とか霊魂とか目に見えない力を感じ、恐れひれ伏した。

地球上の生物に完べきなものはいない。みんな進化の途中と言われています。当然人間も不完全、脳の発達と共に心が豊かになり、その心の負である恐れや悩み苦しみを救うため、人間は宗教を創った。

キリスト教や日本神道や仏教など宗教の究極は、感謝だと言われています。あらゆるものに感謝の気持ちを持つことが、神との関係を深め、自己の心を清浄にし、日々を豊かにすると言われています。

感謝は目に見えません。あたりまえのことですが心も魂も霊も、目には見えません。

この頃は科学文化の実証主義が横行していて、目に見えないと信じられないとか、実体験でないと納得できないと

いう風潮です。

「お前の為にしちゃったんだ、ちいたー感謝せえよ」
「わかつちよる。感謝しちよるいね！」

おっとと身に覚えのある会話。互いに身勝手だからこんな会話になったりする。面と向かっているお二人には、ふしぎと感謝は観えないのに、怒りは観えている。

目に見えない感謝をどうあらわすか。そしてどこで観るか。やはり心で観る。「惻隱の情」という美しい言葉があります。背中合わせでもその人の気持ちが観える、相手を気づかう心情です。子供が人形で育てた心、目に見えないものを観る心ですね。

この頃の私は難聴にくわえ目もおぼろ。見えなくなるのは怖いけど、見たくないものが観えるのは恐怖だよ…。